

旅行記 城めぐり (5)

佐々木 進
(昭和40年採鉱科卒)



会報2020VOL.28に掲載しました「城めぐり(4)」の山陰山陽の名城を巡る旅の後半となります。

全部で13城なので今回はその内、残りの島根県・鳥取県・岡山県の7城をご案内します。

日本100名城で選択された島根県の城は前回ご紹介の「津和野城」と「松江城」「月山富田城」の3城です。鳥取県は「鳥取城」、岡山県は「津山城」「備中松山城」「鬼ノ城」「岡山城」です。

◇ 宍道湖を望む松江城

JR山陰本線「松江駅」からレイクラインバスで10分ほどのところにあります。第一印象は重厚な貫禄のあるお城です。松江城入り口で迎えてくれるのは、戦国武将として名を馳せた「堀尾吉晴(よしはる)」の銅像。その息子・忠氏(ただうじ)が、関ヶ原の合戦で功績を挙げたことにより、堀尾氏は月山富田城(安来市広瀬町)に入り出雲国を治めています。しかし、立地や交通の便などが悪く、統治をより良くするため城地移転を計画。宍道湖の東端に位置し、城下町を見晴らすことができる亀田山に、



松江城

5年の歳月をかけ1611年(慶長16年)松江城を完成させます。吉晴の孫・忠晴(ただはる)が初代城主となり、その後、京極氏、松平氏と松江城の歴史を繋いでいきます。また、松江城は全国で現存する12天守のうちのひとつで「国宝」です。現存するとは、江戸時代またはそれ以前に建てられ、壊れることなく現代に姿を残す特別な存在です。その中でも慶長16年完成の松江城天守は彦根城、姫路城と並び近世城郭最盛期を代表する天守です。余談ですが、「国宝5城」と呼ばれているのは先ほどの2城と「犬山城」「松本城」です。

◇ 山陰・山陽11か国を制した戦国の覇者・尼子氏の月山富田城

JR山陰本線「安来駅」からイエローバスで30分ほどの飯梨川右岸の小高い山裾にあります。散策コースは主な3ルートがありますが城跡まで行くコースは徒歩で50分を要します。特に中程の山中御殿や花の壇はひろびろとして気分が爽快でした。



月山富田城跡

尼子氏は経久が有名で大永元年(1521)安芸・備後・備中・備前・美作・播磨・因幡・伯耆・出雲・石見・隠岐等山陰・山陽11か国をその手に握り全盛を迎えました。

皆さんご存じの1997年1月5日から放送されたNHKの大河ドラマ「毛利元就」で、尼子氏との係争が描かれている。尼子氏の最強軍団「新宮党」を元就が謀略をめぐらし内紛について尼子氏を軍門にくだしました。

その3年後山中鹿介等浪人たちはただひとり落ち延びた孫四郎勝久を大将と仰ぎ、永祿12年(1569)尼子家再興の宿願を果たさんと図るが力及ばず、天正6年(1578)勝久は上月城で自害し、鹿介もまた備中甲部川にて殺害された。この鹿介の苦難に満ちた生き方がのちの世に、三日月に祈り「願わくは我に七難八苦を与え給え」との名文句を残しています。

月山富田城から国道9号線に沿って日本海を左手に見ながら東に向かいました。この松並木の砂浜の景色で懐かしい故郷の思い出がよみがえりました。

◇ 鳥取城

JR山陰本線の「鳥取駅」から北へ袋川をわたり徒歩で20分程度のところにあります。

鳥取城は天文年間(戦国時代後半ごろ)、標高263mの久松山山頂に築かれたことに始まるようです。日本十大籠城戦の舞台になってしまいました。天下統一を目指す織田信長の元、羽柴秀吉は毛利方の最前線であった鳥取城を攻め、2度目の城攻めの際、籠城した吉川経家に対し圧倒的な兵力で包囲網を敷き、一切の補給路を断つ「兵糧攻め」を行い、これがのちに鳥取の「湯え殺し」といわれ、秀吉の天下統一の布石となる重要なものとなりました。鳥取城の石垣もまた見事で国内唯一の球面石垣がみられます。

また、内堀沿いに鳥取県立博物館と隣り合わせに国の重要文化財の「仁風閣」があります。仁風閣はフレンチ・ルネッサ



鳥取城の高石垣



仁風閣の螺旋階段

ンス様式を基調とした白亜の木造瓦葺二階建て、バロック風な棟飾りがほどこしてあり、正面右側にはらせん階段のために角尖型の塔を突出させて、この建築の特徴となっています。明治40年、完成と同時に仁風閣は、時の皇太子殿下(のちの大正天皇)の山陰地方行啓の宿舎として使用され、この時随行した海軍大将東郷平八郎の命名で、今もその直筆が二階ホールに掲げられています。

◇ 「一二三段」に築きあげられた高石垣の津山城(鶴山公園)

津山城はJR津山線の「津山駅」から北へ吉井川をわたり徒歩で15分程度のところにある平山城です。



津山城の備中櫓

慶長8年(1603)森忠政公(森蘭丸の弟)が信州川中島から18万6500石の大名として入封し、13年の歳月をかけて元和2年(1616)に完成させた。津山城は津山盆地の中央に位置する比高50mの鶴山に、総石垣でもって雛壇のように3段、4段重ねに曲輪をきづいており、往時の雄大な面影をとどめています。また、平成17年に築城400年を記念して備中櫓が指図などを基に再建された。この備中櫓は城下からの景観をふくめ、城内で天守に次ぐシンボル性の高い建造物であり、内部は素晴らしい御殿建築となっています。

◇ 天空の城塞「備中松山城」

山の頂より今も見つめる悠久の刻、備中松山城はJR伯備線の「備中高梁駅」から北へ車で10分、下車後徒歩で20分の小高い山頂にあります。

市街地の北端に聳え「おしろやま」の愛称で市民に親しまれている臥牛山(標高約480m)。北から「大松山」「天神の丸」「小松山」「前山」の四つの峰からなり、西から見た山容が、草の上に伏した老牛の姿に似ているとして、「臥牛山」と呼ばれ、備中松山城はその頂を中心に全域に及んでいる。天守の現存する山城としては随一の高さで、城内には天守のほか二重櫓、土堀の一部が現存し、昭和25年に重要文化財の指定を受けています。また、本丸南御門、東御門、腕木御門、路地門などが復元されています。

見どころの多い城であり、結構高低差があるので健脚の方は楽しく回られると思います。また、この城の歴史は深く、鎌倉時代の延応2年(1240)に有漢郷(現在の高梁市有漢町)の地頭に任せられた秋庭三郎重信により臥牛山のうちの



備中松山城の猫城主さんじゅうろう

大松山に砦が築かれたことに始まります。その後歴代城主は高橋氏、高氏、秋庭氏、上野氏と19代にわたり1873年に廃城となります。

◇ 古代吉備の要衝をしめた天陰の山城鬼ノ城

JR吉備線「服部駅」から約5km(JR総社駅からタクシーで約20分)でビクターセンターにつきます。そこから西門に向かって上り坂を10分ほど登ると角楼につきます。西門はすぐ近くで、鬼城山(標高約400m)まで行きます。周囲をぐるっと散策するには約2時間程度を必要とします。



鬼ノ城の西門

鬼ノ城は、総社平野を見下ろす鬼城山に築かれた神籠石系の古代山城で7世紀後半の築城とされている。また、西門は3間×2間で構成される木造3階建ての大規模な城門が復元されている。結構派手であり道路と反対側は急こう配の崖地となっています。一見の価値があり、「謎の城」とも言われています。

◇ 川面に生える漆黒の城「岡山城」

岡山城はJR山陽本線・山陽新幹線の「岡山駅」から東へ1.2kmほど、徒歩で15分程度のところにあります。



岡山城

この城は皆さんがよくご存じであることから、要所をかつまんでご紹介いたします。天正元年(1573)宇喜多直家が、当時この城主であった金光宗高を滅ぼし、その城を修築したのち沼城(岡山市東区沼)から移ってきました。今の岡山城を築いたのは宇喜多直家の実子、秀家である。秀家は父の遺領である備前・美作のほかに備中の一部ももらい、57万4000石の大大名となった。そして、現在天守閣の立つ場所「岡山」という名の小さな丘の上に、新しく旭川の流れを付け替えて、掘削した土砂を盛り上げ上中下三段の地形を造成し城づくりを開始し、8年にも及ぶ大工事であったといえます。歴代の城主は宇喜多氏・小早川氏・池田氏の14代です。

余談ですが、旭川を挟んで対岸には日本三大名園の「後楽園」があり、回遊式の名庭園で庭園のほぼ中央に位置する唯心山と天守の景観はビュースポットとなっています。

地盤調査・土質試験・土地家屋調査 土木設計・一般測量・さく井調査



株式会社 ジョーオ
Geo Co, Ltd

代表取締役 佐々木 秀人
取締役 佐々木 進 (昭和40年採鉱科卒)

本社 東京都調布市東つつじヶ丘3-41-31
〒182-0005
TEL 03(3308)7591
FAX 03(3308)7597
E-mail: geo@msj.biglobe.ne.jp

YIC リフォームのワイケー 塗装&リフォーム

代表 大澤 隆夫 昭和42年機械科卒

〒198-0036 東京都青梅市河辺町1-813-7
東京都青梅市河辺町4-11-12
TEL. 0428-21-5102
FAX. 0428-27-1409
携帯. 090-6473-1846

